

(宛先) 教育指導課長

令和8年 5月 20日

鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校

学校長 小倉 整

令和8年度 鼓ヶ浦中学校研修計画書

研究主題：「自ら学びに向かい、学び合える魅力的な授業の創造 ～学びの調整力を養う指導の工夫～」

領域：全領域

1、主題設定の理由

○鼓ヶ浦中学校の強み、昨年度までの成果

【生徒アンケート】

- ・自己肯定感の高い生徒が多い（自分もやればできる 市平均+2.1%）
- ・学校を居心地がいいところだと思う割合が高い（学校に行きたくないと思うことがある 市平均-4.6%）

【教師アンケート】

- ・研修を行い、組織的に自己研鑽を積もうとされている先生が多い（この学校では、授業の工夫、改善を組織的に行っている 100%、この学校では、他の教師の授業を気軽に参観できる 100%、この学校では、生徒指導や授業の問題点について、校内の先生から率直な指摘や有益な意見を聞くことができる 100%）
- ・インクルーシブ教育への意識を高く持っている（この学校では、特に配慮を要する生徒に対応するために、工夫、改善を組織的に行っている 100%）
- ・日々、授業改善を行う努力をされている先生が多い（授業の中で、生徒が自分の考えを発言しやすくできるよう、指導の工夫を行っている 100%、授業の中で、生徒が学習課題に意欲的に取り組めるよう、指導の工夫を行っている 100%）
- ・先生同士の信頼関係が高い（この学校の先生は、先生同士が互いに信頼し合っている 100%）

○鼓ヶ浦中学校の弱み、課題

【生徒アンケート】

- ・自分の意見を出そうとすることに消極的
（授業中、進んで発言したり、考えを発表したりしている 肯定 48%、自分の考えと比較しながら、友だちの考えを聞いている 市平均-3%）
- ・自分の学びを振り返ることができている生徒が少ない（学びの自己調整がうまくできていない）
（めあて(目標、課題)があると、授業がわかりやすくなる 肯定 84%、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていた 肯定 77%、授業の最後に振り返る時間があると、何を学習したか、何ができるようになったか、自分で確認することができる 肯定 74%、1時間の授業の中で、今何をしているのかわからなくなることがよくある 肯定 53%）

【教師アンケート】

- ・生徒が自分自身で学びの自己調整ができるような課題、振り返りを作ることに難しさを感じている
（授業の中で、生徒が本時で何を学習したか、何をできるようになったか確認できるような振り返りを設定している 市平均-8%）

鼓ヶ浦中学校の昨年度までの取り組みでは、研修・研究授業の充実を図り、ICT活用、特別支援、外国籍生徒支援など多角的な研修を展開した。「学び合い」と「複線型の形態の授業」の組み合わせを研究し、授業改善を組織的に推進した。

研修と実践を行う中で、「学び合い」と「複線型の形態」にこだわってしまい、個別最適な学び（自分のペース）と協働的な学び（学び合い）のバランスに矛盾が生じる場面が出てきた。特に学習に課題のある層（CD層）が、自ら学びに向かうための手段や力がなく授業で置き去りの状態になっていたり、中学校の学びに不慣れな1年生には、学習規律を身に付けさせたり、協働的に学ぶ手段を考えさせたりと、段階的な指導の必要性を気付かされる結果となった。

また、協働的な学びを行うためには、ともに学ぶ仲間の相互尊重や、個々の主体的な参加が学び合う関係づくりに必要であることが見えてきた。学級に教師から働きかける学級経営の視点を合わせて、学習環境を整えていくことが必要であると考えた。

2、研修の基本方針

生成AIなどデジタル技術の発展が相まって、皆と同じことができることも重要だが、それ以上に独自の発想や視点に価値が置かれるようになってきている。将来の予測が困難な時代が到来し、次代を担う子どもたちは、「自らの人生を舵取りできる力」が不可欠となりつつある。答えのない時代の問題解決のために、他者との絆を大切にしながら、課題解決について考える力、持続可能で豊かな未来を切り拓いていく力、主体的に学び困難を乗り越える力、高い志を持ち、責任ある行動を取る力を備えていく必要がある。そのために教師である我々は、一人ひとりの生徒が力を発揮し、心身ともに健やかで豊かに育つことができる環境を作っていかなければならない。

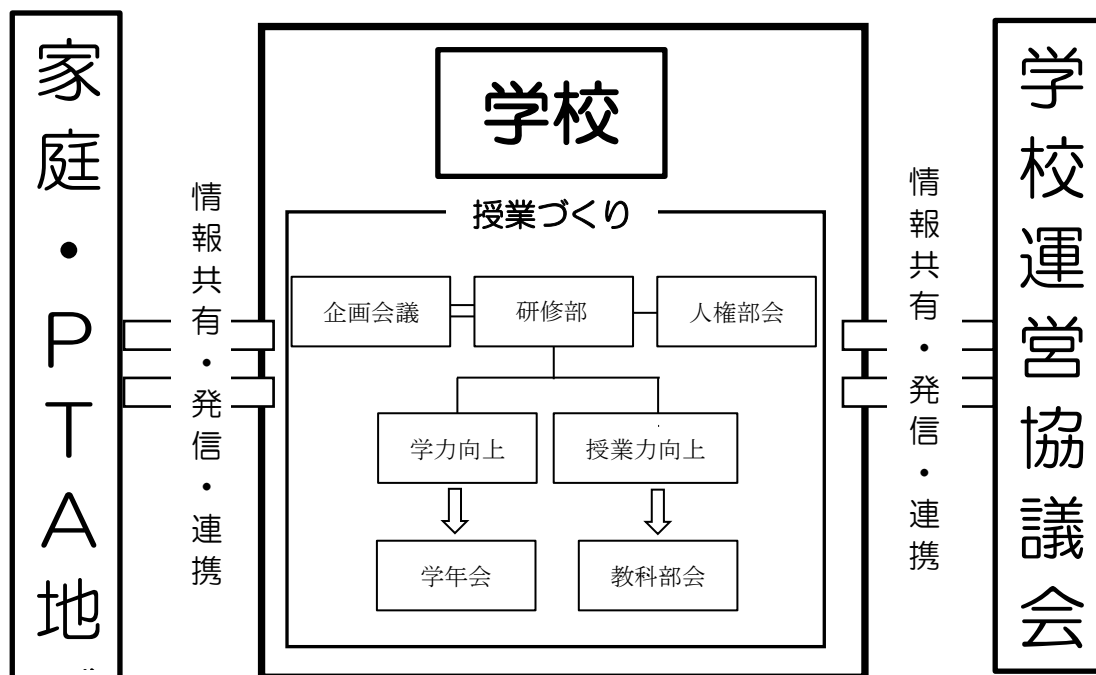
多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものにするために、「主体的・対話的で深い学びの実装」について考えていく。生きて働く「確かな知識」の習得と、資質・能力育成の具体的深化、「好き」を育み「得意」を伸ばすことが、今の授業に求められている。生徒が当事者意識を持って、自分の意見を形成し、多様な他者と対話や合意を図る取組を同時に進め、これらが有機的に関わり合い高まっていく姿を目指したい。そのために、生徒が学習を見通し、計画に基づいて実行、学習の成果を振り返り、何が良かったか、何が不足していたかを分析し、次の計画に活かすという「学びの調整力」を培えるような個別最適な学び・協働的な学びの具体的な方法を研究する。

また、次期学習指導要領において基盤の一つとして示された、「多様性の包摂」も重要な研究として取り組んでいく。学習者主体の授業づくり、学級・集団づくり、教室環境の整備などの視点から、研修を深めていく。

本校は、生徒一人ひとりの学びを保障する授業を目指し、子ども同士が互いの力を活かして、問題を解いたり課題を達成したりする「学び合い」の授業スタイルを取り入れてきた。その中でも特に、「聴（訊）き合う関係」を授業づくりの核としてきた。これまでの実績も活用しつつ、教科部会・授業研究・研究協議を行うことを通して、各教科の専門性を高めるとともに、様々な授業スタイルを活用することで、主体的で個別最適な学びの実現と、教科の横断的な学びや授業力向上につなげたい。

3、組織体制

研修委員会：校長、教頭、研修主任、研修担当（各学年より1名）、学力×ICT 担当、
人権教育担当



4、本年度の取組

○授業改善と学級経営を両輪の取組

【学力向上】

学年ごとに学習の方法についてレベルを設定し、個別最適で協働的な学びを段階的にできることを増やしていく。

○主体的に学びに向かう生徒を育成

- ・生徒自身の学びの自己調整力を養う。そのために、鈴鹿市の「授業力 UP 5 ★ver. 2」の実行。
- ・目標の自己決定（動機づけ）と計画の設定、自ら学習を実行し自分の状態に気付く、学習の結果や方法を振り返って次の学習に活かすことができる生徒の育成。
- ・生徒が学びの自走ができるように目標設定と課題設定の工夫を教師が研究していく。

○個別最適の学習、協働的な学習の方法の研究

- ・一人ひとりが学力や特性に合わせて自分で学び方を選択できる個別最適な学び、問題を自分事に捉えて、学年のレベルに合わせて他者と協働的に学びをすすめる授業の研究に取り組む。
- ・一斉指導やペア・グループ学習、複線型の形態など、学習内容や課題、教師のスキルに合わせて自在に組み合わせる。

（中学1年は学びの基礎、中学2年は学びの応用、中学3年は学びの発展）

- ・1人1台端末を活用した学びの進め方（情報収集、学習状況の確認、振り返り、情報共有し共同で作成・編集、グループ編集できるツールで自分の考えと他者との比較ができる方法など）と、教員側の見取りや評価への活用方法を模索していく。
- ・教育現場における生成 AI の積極的な活用の模索

教職員だけでなく生徒の授業中における生成 AI の活用が求められている。令和8年度に示される

「鈴鹿市生成 AI の教育利活用に関するポリシー及びガイドライン」に則り、教職員が校務で生成 AI を活用する方法及び、生徒に対して生成 AI の正しい活用方法の指導について研究していく。

【学級経営】

○だれもが安心して学べる学級づくり

- ・安心して自分の考えを表現し、失敗を恐れず心理的安全性をもって授業に臨むことができれば、主体的な学びを深めることができる。生徒一人ひとりの自己肯定感を育み、互いを認め合い協力し合える関係性を育む。
- ・これまでの自分の取り組みを客観的に評価し、肯定的に見取れる生徒を育成する。
- ・聴きあう関係には、学級づくりの基盤が重要であり、そこから鼓ヶ浦中で取り組んできた「学び合い」の活動を活用する。

学びの約束 1. 人の話をしっかりと聴きましょう。
2. 「わからない」ときは「考え」ましょう。
3. 「考え」ても「わからない」ときは「ここどうするの？」とききましょう。
4. 「ここどうするの？」ときかれたら、わかるまで支えましょう。

○QUを活用した子どもたちの学校生活における満足度と意欲、学級集団の状態の調査

- ・教師の観察と子どもの実態のズレをQUで補い、学校生活の意欲が低下している子どもなどを発見し、早期対応につなげる。

○インクルーシブ教育への共通認識

- ・特別支援籍だけでなく、通常学級における発達課題を抱える生徒、外国籍の生徒への支援の手立てを教員全体で考え、取り組んでいく。

5、研修部の取組

【授業力向上】

- ①教師が授業を参観し、研究をする場を設定する。
- ②授業研究、校内授業研修会、教科部会の計画・準備をする。
- ③ICTと板書を活用した有効なめあて・ふりかえりの方法の推進。
- ④安心して学ぶための「学びの約束」の統一。
- ⑤個別最適な学び・協働的な学びの方法の提案。
- ⑥子ども同士が認め合い、自己肯定感を高められる温かい人間関係の構築方法の研修。
- ⑦QU等を活用し、学級経営に必要とされる視点や手立てを表出させる。
- ⑧だれでも主体的に学ぶことができるような手立ての発信・啓発。

【学力向上】

- ①全国学力状況調査やみえ・スタディチェックから本校の現状を分析し、手立てを考える。
- ②学力の定着のための研究。
- ③学力に関わる環境づくり、教育の動向についての研究。
- ④効果的な放課後学習や家庭学習の方法の発信とチェック。
- ⑤読書活動の推進。

6、全ての教師で共通認識すること

- ・安心して学ぶことができるクラス、聴（訊）き合う関係を大切にした授業を創る。
- ・主体的・対話的で深い学びとなるような授業を行う。

↓ 具体的な手立て

- ①日々、「聴く」こと、「関わる」ことを大切にする。
- ②生徒一人ひとりが、興味関心を原動力に学びに対して目標を持ち、実践し、振り返るという自走した学びに向かえる授業工夫を研究していく
- ③個別最適な学びや、協働的な学びの方法を実践していく。
- ④生徒の姿を丁寧に見て、生徒の姿から授業改善をしていく。
- ⑤授業での生徒の姿やみえスタディチェックから現状・課題を把握し、授業改善につなげる。
- ⑥家庭学習や読書活動を推進する（eboard の活用、自主学習のすすめ）。
- ⑦学校外の研修への積極的な参加(年1～2回は必ず)